

開講年度	令和7年度	開講期間	後期
科目名	化学		
担当教員	東 秀孝		
学年	1年	学科	作業
単位数	2単位	時間数	30時間
授業の概要	本授業では、化学の基礎概念を概論的に学び、物質の構造や性質、化学反応の基本法則について理解を深めます。原子や分子の仕組み、物質の状態変化、エネルギーのやり取りなどを体系的に取り上げ、専門分野や日常生活に応用できる知識の習得を目指します。		
学習目標	人体は有機物をはじめとした、極めて多種類の化学物質の集合体であるので、化学の知識が必要不可欠であります。この知識を身につけていきます。		
授業計画	1. 原子の構造と放射能 2. 原子の電子構造 3. 周期表と元素 4. 化学結合と分子 5. 物質の量と状態 6. 溶液の化学 7. 酸・塩基と酸化・還元 8. 有機化合物の構造 9. 異性体と立体化学 10. 有機化学反応 11. 高分子化合物 12. 糖類と脂質 13. アミノ酸とタンパク質 14. 核酸—DNAとRNA 15. 練習問題		
教科書	『コ・メディカル化学: 医療・看護系のための基礎化学』 【著】 齋藤勝裕 荒井貞夫 久保勘二 (裳華房)		
参考書			
評価方法	出席状況、レポート提出、授業態度、筆記試験		
備考			

開講年度	令和7年度	開講期間	後期
科目名	心理学		
担当教員	石原 金由		
学年	1年	学科	作業・理学
単位数	2単位	時間数	30時間
授業の概要	本授業では、心理学の基礎的な理論や研究成果を概論的に学び、人間の心と行動の仕組みを理解する力を養います。知覚や記憶、学習、感情、動機づけなどの心理過程に加え、人格や社会的行動についても幅広く取り上げます。講義や身近な事例を通じて自己理解と他者理解を深め、専門分野や日常生活に活かせる心理学的視点を育成します。		
学習目標	1.「心のしくみ」について学び、心のメカニズムに関する基本的な知識を習得する。 2.「心と適応」について学び、環境に適応していくうえで、心がどのように機能しているか理解する。		
授業計画	1. 心理学とは 2. 行動の生物学的基礎(1) 3. 行動の生物学的基礎(2) 4. 学習(1) 5. 学習(2) 6. 記憶(1) 7. 記憶(2) 8. 心の発達(1) 9. 心の発達(2) 10. 欲求と適応(1) 11. 欲求と適応(2) 12. 脳と心(1) 13. 脳と心(2) 14. 脳と心(3) 15. 試験		
教科書	『はじめて出会う心理学』 【著】長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦・廣中直行（有斐閣アルマ）		
参考書	図書館にある心理学に関する蔵書		
評価方法	○出席を含めた平常の授業態度 ○受講中に課す提出物 ○期末試験またはレポート		
備考	授業で紹介する文献・書籍は、機会があれば読んでおくことが望ましい。		

開講年度	令和7年度	開講期間	通年(後期)
科目名	作業療法セミナー		
担当教員	河相 夕華		
学年	1年	学科	作業
単位数	4単位	時間数	60(30)時間
授業の概要	臨床実習に向けて作業療法の基本的な心構え、理論的知識と実践的応用を統合する力を養う。症例検討や模擬演習を通じて、臨床場面で求められる思考力、コミュニケーション能力、倫理的判断を深めることを目指す。		
学習目標	臨床実習で作成する実習報告書(レジュメ)に必要なとされる文章能力の向上。就職活動、実社会で必要とされる語彙力及び、文章読解能力、文章作成能力の育成。		
授業計画	16. 実習についての心構え① 17. 実習についての心構え② 18. 症例についてのまとめ方 19. 症例についてのまとめ方 20. 症例についてのまとめ方 21. 症例についてのまとめ方 22. 症例についてのまとめ方 23. 症例についてのまとめ方 24. 症例についてのまとめ方 25. 症例についてのまとめ方 26. 症例についてのまとめ方 27. 症例についてのまとめ方 28. 発表 29. 発表 30. まとめ		
教科書	特になし。		
参考書	作業療法ジャーナル(三輪書店), 作業療法(一般社団法人日本作業療法士協会), 臨床作業療法(NOVA)(青海社)〔図書館蔵書の雑誌で電子ジャーナル; Medical Finderで検索可能〕		
評価方法	臨床体験実習Ⅰのレジュメ推敲、及び、受講態度、出席状況、課題への取り組み姿勢を含め、総合的に評価する。 ※ただしの検定試験の可否結果は評価対象としない。		
備考	・本講義では、臨床体験実習Ⅰのレジュメについて、発表後に質疑応答等を経て、さらに推敲を加える。その際に3級教科書を参考にして、適確な文章作成ができることを目指す。		

開講年度	令和7年度	開講期間	通年(後期)
科目名	脳神経系の構造と機能		
担当教員	佐近 隆二		
学年	1年	学科	作業
単位数	8単位	時間数	120(60)時間
授業の概要	脳・脊髄などの中枢神経系と脊髄神経・脳神経・自律神経などの末梢神経の構造と機能を学ぶ。脳神経系の構造と機能は、神経系の疾患やリハビリテーションを学ぶ上での基礎となる重要な科目である。		
学習目標	脳神経系の構造と機能に関する知識を学び、リハビリテーション医学・医療を習得する上で活用できるようにする。		
授業計画	31. 小脳 32. 小脳 33. 小脳 34. 脊髄の構造 35. 脊髄の構造 36. 脊髄の構造 37. 脊髄の構造 38. 脊髄神経(神経叢) 39. 脊髄神経(神経叢) 40. 自律神経 41. 自律神経 42. 自律神経 43. 自律神経 44. 感覚機能(受容器) 45. 感覚機能(受容器) 46. 感覚機能(受容器) 47. 感覚機能(伝導路) 48. 感覚機能(伝導路) 49. 感覚機能(伝導路) 50. 錐体路 51. 錐体路 52. 錐体外路 53. 錐体外路 54. 脊髄反射 55. 脊髄反射 56. 脊髄反射 57. 脊髄反射 58. 国家試験対策 59. 国家試験対策 60. まとめ		
教科書	『病気がみえる<vol.7>脳・神経』【著】医療情報科学研究所（メディックメディア）		
参考書	『イラスト解剖学』【著】松村譲児（中外医学社） 『カラー人体解剖学 構造と機能・ミクロからマクロまで』【著】F.Hマティーニ 他（西村書店）		
評価方法	授業態度、課題への取り組み、出席状況、期末試験などを含め、総合的に評価する。		
備考	作業療法の基礎となる科目の一つです。自主的な予習と復習し、各講の内容理解を深めましょう。		

開講年度	令和7年度	開講期間	通年(後期)
科目名	解剖生理学		
担当教員	岩月 宏彦 ・ 熊野 巴之 ・ 中野 和代		
学年	1年	学科	作業
単位数	8単位	時間数	120(60)時間
授業の概要	消化器系・泌尿器系・皮膚・感覚器・内分泌系・生殖器系・ヒトの発生について、構造と機能の視点から取り扱う。		
学習目標	本科目の後期講義では前期に続き、消化器・泌尿器・皮膚・感覚器・内分泌系・生殖器の構造と機能を理解する。これにより、人体が正常に生活を営むために、様々な器官系がうまく統合されて働いていることを知る。更に、本科目は決して難しい教科ではなく、人体を“かたち”と“働き”という二つの面から眺めるという楽しい学問であることを知り、様々な生命現象を模式図を用いながら説明できる能力を習得する。		
授業計画	31. 消化器系-1: 栄養素、口腔、咽頭、食道、胃(岩月) 32. 31. の復習(熊野) 33. 消化器系-2: 小腸、大腸、膀胱(岩月) 34. 33. の復習(熊野) 35. 消化器系-3: 肝臓、胆嚢、腹膜と間膜(岩月) 36. 35. の復習(熊野) 37. 泌尿器系-1: 腎臓、尿路(岩月) 38. 37. の復習(熊野) 39. 泌尿器系-2: 尿の生成、腎臓の内分泌機能(岩月) 40. 39. の復習(熊野) 41. 皮膚-1: 皮膚の構造、毛、脂腺、爪(岩月) 42. 41. の復習(熊野) 43. 皮膚-2: 皮膚の機能、覚醒・睡眠と脳波(岩月) 44. 43. の復習(熊野) 45. 感覚器-1: 眼の発生と構造(岩月) 46. 45. の復習(熊野) 47. 感覚器-2: 眼の機能、耳の発生、耳の構造(岩月) 48. 47. の復習(熊野) 49. 感覚器-3: 聴覚、平衡覚 と 内分泌系-1: ホメオスタシス、 内分泌腺(岩月) 50. 49. の復習(熊野) 51. 内分泌系-2: 視床下部、下垂体系、甲状腺、副腎(岩月) 52. 51. の復習(熊野) 53. 内分泌系-3: 血糖値の調節、血中Ca⁺⁺濃度の調節、血圧の維持(岩月) 54. 53. の復習(熊野) 55. 生殖器系-1: 減数分裂、男性生殖器、精子形成(岩月) 56. 55. の復習(熊野) 57. 生殖器系-2: 女性生殖器、月経、妊娠(岩月) 58. 57. の復習(熊野) 59. ヒトの発生: 受精から胎児まで(岩月) 60. 59. の復習(熊野)		
教科書	『系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能「1」』 【著】坂井健雄・岡田隆夫 (医学書院) 『解剖生理学ワークブック』【著】坂井健雄・岡田隆夫 (医学書院)		
参考書	必要に応じてプリントを配布		
評価方法	期末試験		
備考	岩月のメールアドレス: hirohiko-iwatsuki@ae.auone-net.jp (何時でも質問可)		

開講年度	令和7年度	開講期間	通年(後期)
科目名	運動器系の構造と機能 (運動学)		
担当教員	江草 俊樹		
学年	1年	学科	作業
単位数	12単位	時間数	180(30)時間
授業の概要	本授業では、人体の運動器系について概論的に学びます。骨格、関節、筋肉の構造と機能を体系的に理解し、身体運動の仕組みや特徴を把握します。さらに、日常生活やリハビリテーションにおける運動器の役割を考察し、専門分野で必要となる基礎知識の習得を目指します。		
学習目標	【概要】 後期では、四肢と体幹の運動についての講義を行う。 特に機能解剖学(筋学を中心)を中心に講義をする。 【学習目標】 日常生活上で必要な関節の動きや筋・靱帯の働きが理解できる。		
授業計画	16. 上肢帯と上肢の運動学① 17. 上肢帯と上肢の運動学② 18. 上肢帯と上肢の運動学③ 19. 上肢帯と上肢の運動学④ 20. 骨盤帯と下肢の運動学① 21. 骨盤帯と下肢の運動学② 22. 骨盤帯と下肢の運動学③ 23. 骨盤帯と下肢の運動学④ 24. 頭部・脊柱の運動学① 25. 頭部・脊柱の運動学② 26. 頭部・脊柱の運動学③ 27. 歩行の基礎(身体運動と力学含む) 28. 歩行の筋活動(身体運動と力学含む) 29. 運動学習① 30. 運動学習②、まとめ、国家試験対策		
教科書	『基礎運動学』【著】中村隆一・斉藤宏・長崎浩 (医歯薬出版) 『PT・OT 基礎から学ぶ運動学ノート 第3版』【編】中島雅美・中島喜代彦(医歯薬出版)		
参考書	『病気がみえるvol.11 運動器・整形外科』【著】医療情報科学研究所 (メディックメディア) 『骨格筋ハンドブック(原書第3版)』【監】野村巖(南江堂)		
評価方法	出席状況・授業態度・期末試験		
備考	作業療法の基礎となる科目の一つです。 自主的な予習と復習を行い、各講の内容理解を深めましょう。		

開講年度	令和7年度	開講期間	通年(後期)
科目名	運動器系の構造と機能（口頭試問）		
担当教員	片山 利久		
学年	1年	学科	作業
単位数	12単位	時間数	180(60)時間
授業の概要	筋肉の起始・停止・神経支配・作用を学ぶことで身体の動きを理解する		
学習目標	【概要】 運動器系・脳神経系の構造と機能の復習。 【目標】 既習事項の確認テスト・口頭試問により、解剖学を理解する。		
授業計画	31. 胸鎖乳突筋、舌骨上筋群 32. 舌骨下筋群、 33. 椎前筋群 34. 斜角筋群 35. 頭板状筋、脊柱起立筋 36. 脊柱起立筋 37. 棘筋 38. 横突棘筋 39. 棘間筋、横突間筋、大後頭直筋、小後頭直筋 40. 上頭斜筋、下頭斜筋、外肋間筋、内肋間筋 41. 最内肋間筋、肋骨挙筋、肋下筋、胸横筋 42. 下後鋸筋、横隔膜、腹直筋、錐体筋 43. 外腹斜筋、内腹斜筋、陽方形筋、腹横筋 44. 表情筋 45. 表情筋	46. 上肢の筋のまとめ 47. 上肢の筋のまとめ 48. 上肢の筋のまとめ 49. 上肢の筋のまとめ 50. 上肢の筋のまとめ 51. 上肢の筋のまとめ 52. 上肢の筋のまとめ 53. 下肢の筋のまとめ 54. 下肢の筋のまとめ 55. 下肢の筋のまとめ 56. 下肢の筋のまとめ 57. 下肢の筋のまとめ 58. 下肢の筋のまとめ 59. 下肢の筋のまとめ 60. 下肢の筋のまとめ	
教科書	『骨格筋ハンドブック』【著】野村巖（南江堂） 『PT・OT基礎から学ぶ運動学ノート』【著】中島雅美（医歯薬出版）		
参考書	『カラー人体解剖学ー構造と機能・ミクロからマクロまで』 【著】F.H.マティーニ M.J.ティモンズ M.P.マッキンリ（西村書店） 『基礎運動学』【著】中村隆一、斉藤宏、長崎浩（医歯薬出版） 『分担解剖学1 骨・靱帯・筋』【著】森於菟 他（金原出版） 『新・徒手筋力検査法』【著】Helen J. Hislop Jacqueline Montgomer（協同医書出版）		
評価方法	期末試験		
備考	・事前に各講の内容を予習して授業に臨むこと。 ・口頭試問の結果によって習熟度を確認し、必要に応じて復習プリントなどの課題を課す。 ・毎時、自己学習を繰り返しながら受講しよう。 この科目は実務経験のある教員による授業科目である。 作業療法士としてリハビリテーション病院のリハビリテーション業務に携わる(10年間)。		

開講年度	令和7年度	開講期間	通年(後期)
科目名	リハビリテーション医療		
担当教員	熊野 巴之 ・江草 俊樹		
学年	1年	学科	作業
単位数	4単位	時間数	60(30)時間
授業の概要	リハビリテーションにおけるセラピストの役割と臨床に必要な基本的内容を学習する。		
学習目標	リハビリテーション医学・医療の基礎的事項を知り、各論的に、リハビリテーション医学の適応疾患についてその概要を学ぶ。		
授業計画	16. 画像① 17. 画像② 18. リスク管理① 19. リスク管理② 20. リスク管理③ 21. 装具・住宅改修① 22. 装具・住宅改修② 23. 車椅子① 24. 車椅子② 25. 廃用症候群・老年症候群① 26. 廃用症候群・老年症候群② 27. 脳血管障害① 28. 脳血管障害② 29. 脳血管障害③ 30. まとめ		
教科書	『PT・OTビジュアルテキスト専門基礎 リハビリテーション医学』 【著】安保雅博/監修（羊土社）		
参考書	随時、発信します。 脳血管障害に関しては、『病気がみえるvol.7 脳・神経 第2版』【編】医療情報科学研究所(メディックメディア)		
評価方法	出席状況と期末試験によって総合的に評価する。		
備考	リハビリテーション医学の定義や歴史、評価法、多職種連携、リハビリテーション治療の実践的な内容を説明。		

開講年度	令和7年度	開講期間	通年(後期)
科目名	作業療法概論		
担当教員	河相 夕華		
学年	1年	学科	作業
単位数	2単位	時間数	60(30)時間
授業の概要	本授業では、作業療法の歴史、理念、対象、役割について学び、専門職としての基本的な知識と態度を身につけます。講義、グループワーク、事例検討等を通して、作業療法の本質を理解し、その多様な実践分野と対象者について概観します。		
学習目標	作業療法的視点からの治療的アプローチの概要について知る。		
授業計画	16. 後期オリエンテーション 17. 作業療法の理論(1) 18. 作業療法の理論(2) 19. 作業療法の理論(3) 20. 作業療法の理論(4) 21. 作業療法の理論(5) 22. 作業療法の理論(6) 23. 国家試験対策① 24. 作業療法の研究(1) 25. 作業療法の研究(2) 26. 作業療法の研究(3) 27. 作業療法の研究(4) 28. 作業療法の研究(5) 29. 国家試験対策② 30. まとめ		
教科書	『作業療法学概論テキスト』【著】東登志夫（南江堂）		
参考書	作業療法ジャーナル(三輪書店), 作業療法(一般社団法人日本作業療法士協会), 臨床作業療法(NOVA)(青海社)〔図書館蔵書の雑誌で電子ジャーナル; Medical Finderで検索可能〕		
評価方法	期末試験、出席状況、受講態度、課題への取り組み姿勢の4項目を鑑み、総合的に評価する。		
備考	将来、臨床家として必要とされる「自発的に学び続ける姿勢」の習得を目指す。		

開講年度	令和7年度	開講期間	通年(後期)
科目名	基礎作業療法学		
担当教員	中野 和代 ・ 河相 夕華		
学年	1年	学科	作業
単位数	4単位	時間数	120(60)時間
授業の概要	作業療法におけるキーワードとして、「人は作業を行うことで健康になれる」がある。作品作りを通して、道具の名称や使用方法を知る。また、作業分析・治療効果・段階づけ・リスク管理について扱う。さらに、治療に生かすことのできる作業の選択について学ぶ。		
学習目標	創造的な作業活動の体験を通じ、作業療法プログラムとして実習及び臨床場面で活かすことができるようになる。		
	31～36講： 絵本/紙芝居作成 37～42講： ネット手芸 43～46講： タイルモザイク 47～48講： 地域年中行事と時代調べ 49～52講： ちぎり絵 53～56講： 集団作業療法プログラム作成 57～58講： 集団作業療法の実施 59～60講： 作業活動の振り返りとまとめ・国家試験対策		
教科書	『作業活動実習マニュアル』【著】古川宏（医歯薬出版）		
参考書	『作業—その治療的応用』【著】日本作業療法士協会（協同医書出版）		
評価方法	授業への取り組み姿勢・出席状況などによる総合評価		
備考	それぞれの作業活動は、治療的役割、適応疾患、リスク管理についても考えよう。		

開講年度	令和7年度	開講期間	通年(後期)
科目名	作業療法管理学		
担当教員	河相 夕華		
学年	1年	学科	作業
単位数	2単位	時間数	60(30)時間
授業の概要	リハビリテーションにおけるリスク管理を中心に学ぶ		
学習目標	マネジメントについて学習することで、危機を防ぐマネジメント能力を身につける。 病院・施設・在宅などでの対象者に対する課題の把握とリスク管理やマネジメントについて理解できる。 職場内のマネジメントについて理解できる。		
授業計画	16. リハビリテーションにおけるリスク管理の必要性和対策 17. 合併症予防のための情報収集 18. リスク管理に必要な検査の知識① 19. リスク管理に必要な検査の知識② 20. 状態変化時の対応 21. 安全管理・推進のためのガイドライン 22. リハビリテーション中に起きた医療事故と法的責任 23. 診療ガイドラインと法的責任 24. 医師不在の環境での対応 25. リハビリテーションマネジメント演習 OTのキャリア 26. リハビリテーションマネジメント演習 多職種連携 27. リハビリテーションマネジメント演習 多職種連携 28. リハビリテーションマネジメント演習 KYT 29. リハビリテーションマネジメント演習 KYT 30. リハビリテーションマネジメント演習 KYT		
教科書	『作業療法管理学』【著】大庭潤平（医歯薬出版）		
参考書	「リハビリテーションリスク管理ハンドブック」【編集】亀田メディカルセンター(MEDICALVIEW) 「リハビリテーション職種のマネジメント」【著】高木綾一(CBR)		
評価方法	課題・期末試験・課題学習・グループワーク・出席状況による総合評価		
備考			